

年 組 名前:

暮らし「悪化」が拡大

勤労者調査 物価高に悩み7割

山梨中央銀行がまとめた
県内勤労者の暮らし向き



山梨中央銀行が実施した県内勤労者の消費・貯蓄動向調査によると、1年前と比べて暮らし向きが「悪くなった」と回答した人は28・3%で、1年前の調査時と比べて5・0ポイント悪化した。「良くなった」は1・8ポイント増の11・5%。家計上の悩みは「物価上昇」が約7割を占めた。県内景気は改善傾向にあるが、ウクライナ情勢や円安を背景とした物価高で家計負担が増し、生活実感が悪化したとみられる。

調査は毎年、夏と冬の2回実施。民間調査会社に委託してウェブアンケート形式を採用し、10月下旬から11月上旬に5333人が回答した。暮らし向きが1年前と比べて「変わらない」とした人の割合は6・8ポイント減の60・2%。今夏の前回調査比では「悪くなった」は3・4ポイント増、「良くなった」は0・9ポイント増、「変わらない」とは0・9ポイント増、「悪くなった」は4・3ポイント減となった。今回の調査で「良くなった」人の割合から「悪くなった」を引いた差はマイナス16・8ポイントで、1年前の冬調査から3・2ポイント悪化、前回の夏調査からは2・5ポイント悪化した。家計上の悩み(3項目選択)は、「物価上昇」が昨冬から26・2ポイント増の73・2%で最も高かった。食料品や電気代、ガス代など生活に関わる多くの品目で値上げがあったことが影響したとみられる。「収入の伸び悩み」が昨冬比4・9ポイント減の60・4%、「税金負担増」が1・2ポイント増の48・4%などだった。平均貯蓄額は昨冬比5万円減の49・5万円。貯蓄額は「100万円以下」が最多で、「101〜200万円」「2001〜3000万円」がそれぞれ10・1%と10・0%、「401〜500万円」「201〜300万円」と続いた。冬季ボーナスが「増えそう」と回答した人の割合から「減りそう」を引いた差は昨冬比11・1ポイント増のマイナス15・7。使い道では59・9%が「貯蓄」と回答した。

調査した山梨中銀経営コンサルティングは「経済状況は改善しているが、消費者は物価上昇に敏感で生活実感が悪化傾向。今後も資源高は続く見通しで、生活実感の悪化は続く」とみられるとしている。

(2022年12月13日付 山梨日日新聞7面)

問1

勤労者の調査で、暮らし向きが「悪くなった」と回答した人が、1年前との比較で、5.0ポイント悪化しました。半年前の夏と比較した状況を、グラフから答えてください。

.....

問2

どのような理由で、生活実感が悪化したと考えられていますか。

.....

問3

調査会社は、今後の見通しをどのように考えていますか。

.....

.....